

予備試験合格パック - ガイダンス p a r t 2

加藤ゼミナール代表 弁護士・加藤 喬

(目次)

| | |
|-------------------------------|-------|
| 第1. 予備試験合格パックとは | p 2 |
| 第2. 司法試験・予備試験で大事なこと | p 3 |
| 第3. 予備試験1年合格を目指すべきか | p 4 |
| 第4. 加藤ゼミナールの予備試験合格パックのこだわり | p 5 |
| 第5. 司法試験・予備試験対策として予備校を利用する必要性 | p 8 |
| 第6. 講義の聴き方、教材の使い方 | p 9 |
| 第7. 予備試験合格パックについてよく頂くご質問 | p 1 1 |
| 第8. カリキュラムを構成する講義ごとの説明 | p 1 3 |

第1. 予備試験合格パックとは

加藤ゼミナールの予備試験合格パックでは、私が作成した基礎・応用完成テキストをメイン教材として、入門段階を高野泰衡講師が、試験対策の段階を私がそれぞれ分担することにより、基礎固めから試験対策レベルの勉強まで一気通貫したカリキュラムになっております。

入門段階を担当する高野講師は、30年近くにわたって司法試験の入門講座を中心とする指導経験を有する入門のプロであり、純粋初学者の方に対して、法律学について入り口のところから分かりやすく丁寧に説明することを得意とします。

私は、徹底した過去問分析に基づく試験対策レベルの講義を得意としているとともに、様々な文献を参照した上で試験対策の観点からまとめられたテキストを作成することを得意としております。これまでに数十冊にわたる予備校テキストを作成して参りました。

今回の予備試験合格パックで使用する教材の大部分は、私が作成いたします。

予備試験合格パックでは、当該科目で司法試験1位を獲得した私（労働法1位・総合39位）と加藤駿征弁護士（経済法1位・総合5位）が担当する選択科目対策講座が含まれるとともに、予備試験合格後の学習支援として最新版の司法試験過去問講座全年度分の無料付与もごぞいます。

このように、加藤ゼミナールの予備試験合格パックだけで、純粋初学者の方でも、予備試験合格から司法試験合格、さらには超上位合格まで目指すことができます。

従いまして、加藤ゼミナールの予備試験合格パックを受講して予備試験・司法試験合格を目指す上で、法学部であるか否か、法律学習の経験の有無は問いません。

誰しものが、加藤ゼミナールの予備試験合格パックを受講して合格を掴み取るチャンスを持っております。

第2. 司法試験・予備試験で大事なこと

1. 論文試験で大事なこと

司法試験でも予備試験でも、最も競争が激しいのが論文試験です。

よく、司法試験・予備試験では「論理的思考力」が大事であることを言われることがありますが、実際のところ、論理的思考力といった高い次元のところでは合否が決まることは殆どありません(勿論、1～2桁台の上位合格を目指す上では、論理的思考力もそれなりに重要になってきます)。

論文試験においては、論理的思考力よりも、次の4つのことが大事です。

- ①大量の情報を記憶する記憶力
- ②問題文から出題者のニーズを読み取る読解力
- ③記憶したこと・その場で考えたことを分かりやすく簡潔に表現する文章力
- ④試験対策として割り切り学問的正確性や論理の繋がりを過度に追求しない素直さ・器用さ

2. 言語化の前にイメージを先行させる

法律学習の対象は、抽象的な概念、条文といったものであるため、これらがだいたいどういうものなのか(条文なら、だいたいどういう場面で、何のために適用されるのか)といったことについて脳内でイメージできるようになることが大事です。

だいたいのことをイメージできていないのにいきなり言語化して理解・記憶しようとしても、理解が伴わない表面的な単なる文字としての知識が身につくだけです。

したがって、まずは全体を俯瞰することを優先し、その際、分野、重要な条文・手続・論点について脳内でイメージできるようになれば足りますし、そのイメージは曖昧・不正確なものでも構いません。

その後で、徐々に、脳内でイメージできることを言語化して理解・記憶していきます。

3. 法体系に結び付ける形で個々の知識を理解する

法律の勉強に限ったことではありませんが、個々の知識を体系(=全体像)に結び付けることが重要です。

まずは各法の体系(=全体像)を把握し、その上で個々の条文・判例学説といった知識を法体系に結び付けて理解するように努めます。

体系に結び付けられていないぶつ切りの断片的な知識を増やしても、問題は解けません。個々の知識をどの場面でどう使うのかが分からないからです。

勿論、個々の知識について勉強する過程が各法の体系の習得を促進することにも繋がるので、体系の把握と個々の知識の習得を完全に分離することはできないのですが、まずは全体像をざっと把握するために軽く1周し、細かいこと・深いことは2周目以降に回すべきです。